

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 23 年度第 4 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		小金井市ごみ対策課		
開催日時		平成 24 年 3 月 19 日 (月) 午後 6 時 00 分から午後 8 時 00 分まで		
開催場所		小金井市役所 第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者；10 名> 庄司会長・加藤委員・竹内委員・佐藤委員・多田委員・伊藤委員・鈴木委員・簀口委員・原委員・松村委員 <欠席者；5 名>		
	事務局	岡部環境部長・柿崎ごみ対策課長・三浦ごみ処理施設担当課長・石阪ごみ対策課長補佐・井上・八方・中村・府川		
傍聴者の可否		可	傍聴者数	2
会議次第		1 開 会 第 3 回審議会会議録の確認 2 議 題 (1) 報告事項 ア 平成 23 年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗について (2) 「平成 24 年度一般廃棄物処理計画 (案)」について審議 (3) その他		
会議結果		別紙審議経過のとおり		
提出資料		別添のとおり		
その他				

平成23年度第4回廃棄物減量等推進審議会審議過程（主たる発言等）3月19日開催

庄司会長	<p>開会</p> <p>第3回廃棄物減量等推進審議会の会議録であるが、今回は、事務局からの送付が遅くなったため、確認していない方も多と思われる。よって、今後確認をお願いすることとし、ご意見等あれば3月23日（金）を期日として事務局まで連絡をお願いしたい。その後承認とし、公開の手続きをとることとする。</p> <p>議題（1）報告事項に入る前に、事務局より本日の配布資料について確認願いたい。</p>
府川係長	<p>「配布資料の確認」</p>
庄司会長	<p>次に、議題（1）ア 平成23年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について及びイ 新ごみ処理施設建設事業の進捗について事務局より説明願いたい。</p> <p>資料：「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」に基づき説明</p>
三浦課長	<p>平成24年の1月までの可燃ごみの処理量実績は、家庭系ごみは11,569.8トン、事業系652.7トンとなり、これを前年の同時期と比較すると、家庭系では、768.6トン、6.23%の減、同様に事業系は39.6トン、5.7%の減量となっており、全体では808.2トン、6.20%の減となっている。</p> <p>なお、表中の比較増減率について、2月分が36.6トン、3.78%の微増となっている。これは、平成24年2月期が閏年となっており、収集日が昨年と比較して1日多いためである。昨年と曜日の日数を比較すると、水曜日が平成23年は4日、24年は5日と1日多いためと分析している。</p> <p>しかし、全体では6.20%の減量が達成されているところであり、このような減量が図られた主な要因は、当審議会でご提案いただいた減量施策等が目に見える形で現れたものであり、加えて市民の皆様のごみ減量に対する努力の賜物であると考えます。</p> <p>資料：「平成23年度可燃ごみ処理の支援状況について」に基づき説明</p> <p>各団体への搬入量実績はご覧のとおりとなっている。また、平成24年度については、前回の当審議会に報告したところであるが、多摩川衛生組合から前年度並みの8,000トンについてはご支援をお願いできることとなり、現在、事務的な調整を進めているところである。当市の窮状にご理解をいただき、施設周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様に、この場をお借りして改めて</p>

	<p>御礼を申し上げる次第である。</p> <p>しかしながら、平成24年度については、未だ全量処理の目処が立つ段階には至っておらず、引き続き各団体へ全力で支援の要請を行っているところであり、今しばらくお時間をいただきたい。</p> <p>次に、新ごみ処理施設建設事業の進捗状況についてであるが、3月14日に開催されたごみ処理施設建設等調査特別委員会でもご議論いただき、また、新聞報道等が行われているところである。この中で、「市といたしましては、二枚橋焼却場跡地の活用を基本としてまいりましたが、極めて厳しい状況になったと認識しております。今後は、国分寺市と十分な協議を行いながら、あらゆる方策を慎重に検討していく。」との趣旨でコメントを発表したところである。</p> <p>また、市長も「平成24年度末までに実現可能な方針を示す」との考え方を示しているところであり、早期に現状から脱却すべく、今後も市長並びに市議会とも一体となって取り組んでいく所存である。</p> <p>現在の状況が多方面からご批判をいただいている事は重々承知をしているところではあるが、市民生活に影響のないよう、今後のごみ処理の体制作りにも全力で取り組んでいくので、今しばらくお時間をいただきたい。なお、具体的な進捗を示すことのできる段階となれば、速やかに当審議会に報告させていただくので、ご理解いただくようお願い申し上げます。</p>
庄司会長	<p>今の報告について、ご意見ご質問等はないか。</p>
加藤委員	<p>私も3月14日に行われた、ごみ処理施設建設等調査特別委員会を傍聴させていただいた。その時の報告では、燃やすごみの処理量の見込みについては年間12,600トンであるという説明があり、大幅な減量が達成でき、すごい事であると感じた。今回の資料を拝見すると、先日の報告であった年間12,600トンに対して2月までの処理量実績が12,222.5tであり、その差が378トン弱となっている。過去の月別実績を見ると、おおよそ1,000トンは3月分の処理量として見込まれると予想される。市ではやはり13,000トンを超えると予想しているのか。</p>
三浦課長	<p>市議会の質疑の中で申し上げた12,600tについては、家庭系ごみのみの見込みである。配布資料をご覧くださいと、2月までの処理量11,569.8トンに月の処理量である約1,000トンを足すことにより算定している。</p>
庄司会長	<p>配布資料を見ると、家庭系及び事業系を含めた対前年度比較では2月までではあるが6.2%減となっており、これから議論する処理計画上での目標数値は5%減であるため、おそらく目標は十分達成するものと思われる。</p> <p>質問がなければ(2)「平成24年度一般廃棄物処理計画(案)」について審</p>

府川係長	<p>議を行う。</p> <p>資料：「平成24年度一般廃棄物処理計画（案）」に基づき説明</p>
庄司会長	<p>今回の修正版については、文章や表の重複等を省いた結果、前回の資料よりも整理されている印象を受ける。</p> <p>なお、処理計画上の見込み数値について、今までは平成23年度上半期実績を元に平成23年度末までの予測を前提として来年度計画の数字を出している。時間的には仕方がないことだが、その後数カ月が経過することにより、状況の変化も考えられる。現状では、2月末までの実績は出ており、基本的な方針を踏襲して5%減及び1%減の計画を実施していく中でより正確な数値を捉えていく必要がある。ご意見ご質問はないか。</p>
加藤委員	<p>まず、前回の修正案と比較して随分整理されているので良い仕上がりになっている。次に質問事項として、14ページに「今後は可燃ごみの安定的処理に向けてあらゆる方策を検討し、平成24年度末までに実現可能な方針を示す予定である」とあるが、先日開催された委員会での内容を整理すると、一部事務組合への加入ということにならざるを得ない。処理計画の冒頭にある、「最大限のごみ減量を目指す」ことがさらに重要になると思う。</p> <p>水切りについては、9ページの減量効果の推計の箇所、全世帯25%についての新たな効果を生むとあり、大変な取り組みをしなければならないと思う。生ごみの中でもキャベツやきゅうり等は水切り袋では絞っても水は出てこない。野菜は90%以上が水分であり、水切り袋以外の具体的な方策を市民に示し、また、講座等も開催しなければ、平成24年度の目標は達成しないと思う。確実な方法としては、風干もしくは天日干しだと思っている。まだまだ水分を多く含んだ生ごみを出している人も多いという点で、まずは、水切り袋を絞る取り組みが必要だと思うがそれだけでは足りないと思っている。</p> <p>生ごみは、燃やすごみに含まれる割合としては一番多く、水切り以外にも生ごみの分別収集が必要であると考えている。この件については、一般廃棄物処理基本計画内に記載があり、生ごみについては、肥料化装置を整備するとともに、一般家庭からの生ごみの収集を開始し、徐々に拡大していくことを想定している。また、基本計画内の資料においても、全世帯の1割を対象として22年度には500トン、27年度には1,000トンと書いてあり、パブリックコメントにも同じ様な事が書いてあるが、全く手がつけられていない。</p> <p>また、アンケートでも市民に対する協力というのは、70%以上の方が分別収集を開始したら協力すると言っている。このことを今回の処理計画に新たに盛り込むことは大変なことかも知れないが、市民に対する約束なので、実施して頂きたいと思っている。実施方法についても、あまりコストが掛からない色々な方法が考えられ、他市の例も踏まえながら勉強して行っていくべきだ。</p>

<p>石阪課長補佐</p>	<p>市では、生ごみの分別収集についてはどのように考えているのか。</p> <p>今回の充実させる施策の中で、生ごみの水切り検証結果に基づく減量効果を周知すると記載をしており、今年度行われたモニタリングの結果については、元々生ごみについて意識の高い方がさらにもうひと絞りすることにより10.6%減という結果が出たことを踏まえると、一定の評価ができると考えている。</p> <p>しかし、昨年末頃、ごみ対策課職員が市外のある焼却施設に行った際に、市内で収集された燃やすごみの搬入状況を確認してきたが、その時の状況としては、生ごみの割合が非常に多く、その中でも水分がかなり多く含まれている印象であるため、さらなる水切りを推進していく必要性を改めて感じた。</p> <p>今後の取り組みとしては、水切りの重要性をどのように周知していくか考えていくことが課題であると考えており、例えば、生ごみには臭気があるので腐敗を遅らせるために水を切るという異なる視点からのアプローチも踏まえながら、生ごみの水切りに関して意識の低い市民の方々にも理解していただくことが有効であると考えている。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>今回の水切りモニターについては、ごみゼロ化推進員のメンバーを対象にしており、以前より水切りを行っている方々なので意識も高く、果たして成果が出るのか疑問も持ちながら取り組んだが、やはり一定の水準にしかならなかった。次回開催するときは、ごみゼロ化推進員以外の不特定多数を対象にしないと本当の水切り効果は確認できないと考える。実際に焼却施設に見学に行くと、パッカー車から最初に出るのは水分である。まだまだ水切りをしていない人が多いと思う。私は一部事務組合に加入する件について、新聞報道でもあるように13,000トンの全量は無理ということになれば、小金井で3,000トンぐらいは燃やすごみの減量をしなければならないと思う。また、東日本大震災において発生した瓦礫処理を多摩地域7ヶ所の焼却処理場で3年間の中で160,000トンの処理を行うと聞いており、今後は、小金井市内から出た燃やすごみを処理するから、東日本大震災の瓦礫を一切受け入れないというわけにはいかないと思う。小金井市は相当の減量努力をしなければならない。</p>
<p>柿崎課長</p>	<p>一般廃棄物処理基本計画の35ページ中、確かに生ごみの分別収集の検討という項目の中で、前期で一部世帯での導入、後期で対象世帯の拡大と記載している。基本計画作成当時は、生ごみの分別収集も今後の施策の1つとして意識していたとは思いますが、現実的に生ごみを分別収集するためには、市民の方々に相当努力していただかないと実現は難しいと考えている。それよりは、生ごみ処理機購入費補助制度の利用、現在、市民ボランティアの方々がやっている生ごみの土曜日投入、夏休み投入等個人の意識や地域の底上げを行う方が効果としては大きいと考えている。</p>

	<p>分別収集を行うには水切りの問題が出てくる。実際にタウンミーティング等を実施していく中で、ごみ減量に取り組んでいるのは、比較的50代以上の方々が多く、一方40代の中でもとりわけ子育て世代では、取り組む方とそうでない方の差が大きい印象を受けた。一つの事例であるが、昨年の12月上旬に市内保育園・学童保育・児童館等に生ごみ処理機購入費補助制度のチラシを配布したところ、1か月で80数件の申請があった。なお、1月についても30件近くの申請があり、これからごみの減量を推進していく中では、ある特定の年代にターゲットを絞るのも一つの戦略であると思う。</p> <p>また、生ごみ乾燥物の戸別回収を市職員が行っているが、特徴としては、地域により回収量に差があるため、今後はあまり回収実績の少ない地域については、チラシを配布するなどして、生ごみ処理機購入費補助制度を活用しながら生ごみの減量を訴えていきたい。あわせて生ごみの水切りに関しても、水切りイコールごみ減量という話のみであると、興味を示さない可能性もあるため、例えば、腐敗を防ぐ一つの方法になることを訴える等、徐々に進めていきたい。自身も先日、国分寺市の焼却施設に行ったが、かなり水分がある。収集車両つまり地域によって差がある。先日の組成分析の結果、60%以上が生ごみという結果も出ているが、その時のサンプルはある一部地域に限定して採取したものであり、結果的にその地域の生ごみが多かったものと分析している。現時点では、現行の施策を市民と協働しながら実施していくのが得策と考えている。</p> <p>最後に燃やすごみについては、生ごみだけでなく、紙ごみも含まれているので、生ごみに特化せずに全ての組成の中の3大要素を減らしていくのがごみの減量に近づいていくものである。</p>
加藤委員	<p>一部事務組合に加入するという事になると、これまでの現行施策のままでは、一部事務組合への加入は難しいと思う。私も土曜日に第一小学校の生ごみ投入の責任者として取り組んでいるが、投入量としては年間で約1トン、他校では2トンのところもあるが、夏休み期間中でも3トンや4トン程度である。処理計画上、24年度新たに1年間、継続的に稼働する生ごみ処理機の台数も260台である。小金井市は日本一ごみの少ない街となったが、現在の状況では決して甘んじることはできないと思う。</p>
庄司会長	<p>全国的に見ても可燃ごみの中で減量するだけでなく、どう処理していくかという部分では生ごみは大きな課題となっており、その点については市町村でも苦勞している。ただし、他市とは異なり、特殊事情のある小金井市は、可能性のあるものは限りなく実践してきたことにより現在に至ってはいるが、生ごみについても他市とは異なる施策を行っていかなければならない。その点では生ごみ処理機購入費補助制度も申請件数が多いとは言えないが、他市と比較すれば予算をかけて取り組んでいる施策である。また、生ごみの中でも水切りについてはごみを減らす上では大きな意味を持っているのは確かであり、食品リサ</p>

	<p>イクル法ではリサイクル率の達成には、水切りが大きな要素として挙げられており、減量ではなく、縮減という言葉を用いている。水を切ることで重さが軽くなり、処理しやすくなる。燃やすことに対して水は反作用であり、水を減らすことは大きな意味があるので、平成24年度は水切りが大きな課題の1つになると思う。加藤委員が指摘した基本計画の中では、分別収集することを想定しているようであるが、現状では、生ごみ処理機や他の施策の中で着実に減量を達成している。</p>
伊藤委員	<p>9ページの推計表であるが、例えば、古紙の分別徹底した場合の箇所でも14.8%という平成23年度組成分析時の値等いくつかの項目があり、平成23年度処理計画での推計を算定する際も同様の項目を用いながら算定しているのか。また、平成24年度処理計画の中で、平成23年度の達成状況の記述があり7.2%の減とあるが、その内訳については算定しているのか。</p>
府川係長	<p>基本的には毎年度同じように算定している。ただし、参考データについてはより直近の情報を使いながら、より実態に近づけている。ただし、算定した数値はあくまでも1つの推計値であることをご理解いただきたい。</p>
庄司会長	<p>平成23年度も同様の形でごみ減量目標数値を根拠づける内訳として同じように算定している。最終的には去年の目標量を更に上回っているのだから、予想以上に達成できたということだ。ただし、7.2%減量した内訳は出していない。</p>
府川係長	<p>昨年度も今回と同様に5%減を目標設定しており、平成23年度は剪定枝が予想以上の回収量であった。</p>
竹内委員	<p>同じく、9ページで減量効果の推計の中で4つの分類があり、水切りが推計上では一番多いが、具体的に対象地域や対象世帯を限定した中で市民の皆さんに協力をお願いする必要がある。実際にはどのように考えているのか。</p> <p>また、生ごみの土曜日投入で私は第一中学校の責任者としてボランティア活動に携わっており、徐々にではあるが投入者数が増えてきている。1日の投入量の合計は約60キログラムから70キログラムあり、多い時は80キログラム集まる時がある。1カ月に換算すれば約320キログラムになり、年間では約4トンになる。この事業は今後も拡大していくと思われるので、9ページの減量効果の推計項目に加えてほしい。これは、水切り以上に効果があると考えており、生ごみを台所で分別後、毎週土曜日に持参するので、収集や焼却費用が掛らず、最終的には堆肥として利用されているため、完全なりサイクルである。この方法を推進した方が、堆肥を利用した野菜を市民が食べ、環境面にとっても良いことだ。学校の処理機を使用するので電気代が発生するという課題</p>

加藤委員	<p>はあるが、毎週土曜日に学校へ持ち寄るため、生ごみの水切りは関係なくなる。</p> <p>現在、土曜日生ごみリサイクルの会というものがあり、土曜日投入を行っている全5校で取り組んでいるボランティアの皆さんが集まり、お互いに協力していこうというものである。我々としても平成24年度中にさらに1、2校は増やすという目標があるが、これから継続して実施していくためには市のバックアップが必要である。</p>
竹内委員	<p>土曜日生ごみリサイクルの会は私が代表となり、昨年NPO登録した。投入量の集計はしていないが、おおよそ昨年度の投入量合計は12から13トンになると思われ、今年度はさらに増加するものと予想している。</p>
庄司会長	<p>水切りあるいは生ごみに関して何かご質問はあるか。</p>
佐藤委員	<p>生ごみから水がかなり出ているということだが、一般の市民に分かりやすい説明が大事であると考えており、バケツで何杯くらい出ているとか何トンとか書いてもらおうと非常に分かりやすくなる。今まで以上に啓発を強化していただきたい。</p>
松村委員	<p>生ごみをリサイクルし、循環していくのが一番良い方策ではあるが、現段階では推計値である297トンに比べれば非常に少ない。各家庭から排出された生ごみの大部分は、パッカー車に積み込み後、処理場に運ばれている。その中には多くの生ごみが入っており、当然水分も多く含まれている。パッカー車自体が収集後に水を絞るような機能を搭載したものがあるのではないか。</p>
庄司会長	<p>通常、水を絞る機能を持った収集車はないと思うが、パッカー車はごみを圧縮する過程で水が出る。</p> <p>私が生ごみの仕事を始めたのは、約40年前からであり、当時のごみ貯留槽は、大げさに言うとプールにごみが浮いているような感じであった。その後、生ごみの質や収集方法の変化等、さまざまな要素が加わり、現在も当時ほどではないが、依然として可燃ごみの水分含有率は高い。</p>
府川係長	<p>先程の佐藤委員のご指摘であるが、我々もその点が非常に重要であると考えている。どう伝えていくかはこれから検討していかなければならないが、平成24年度は啓発を重点的に考えていきたい。去年の燃やすごみの収集停止の問題が出た頃から、市民の皆さんのご意見として、今まで意識がなかったが、市のごみ減量に協力するという声が少なからずあった。また、先日、市の出前講座に参加したが、今まで全くごみ減量について意識がなかったという声があり、その中でも比較的若い世代から意見が出ていた。小金井市内の人口の内、</p>



	<p>半数以上が20代から40代であり、この世代は仕事を抱え、また、子育ても担うなど非常に忙しい世代である。加藤委員より水切りについては色々な提案を頂いているが、このような忙しい世代にもどのようにしたら水切りを実践してもらえるか、まずは、啓発というところに力を注がなければならない。</p> <p>その手始めとして、3月21日から5月9日まで、市民課に手続きに来庁する転入者に啓発用の水切り袋を1世帯1枚配布する。また、市報3月15日号ごみ減量・リサイクル特集に掲載しているが、小学生以下の児童及びその保護者世代をターゲットにした、親子で楽しむざつがみリサイクル袋手作り講座を行い、その中で、生ごみの水切り、紙類、枝木の話など燃やすごみを減量するための講義も併せて行う予定である。まずはターゲットを絞った上で、地道に啓発活動をしていきたい。</p>
加藤委員	<p>ただ今の親子で楽しむざつがみリサイクル袋手作り講座というのは新しい取り組みで非常に良い。また、水切り講座も別途計画していく必要があると思う。</p> <p>次に、8ページの充実させる施策として、ごみの相談員制度について記載があるが、以前ごみゼロ化推進会議で提案した際には、一般のごみ相談員制度と生ごみに特化したアドバイザー制度の2つを市に要望した。生ごみアドバイザーについては、事前準備ということで、生ごみ利用者懇談会を過去に2回程行い、約15人が参加した。私は、生ごみ処理機利用者のさらなる増加、また、使用を止めている人を掘り起こすことも含めて、生ごみアドバイザー制度を是非実現させていただきたい。実際に私のところには、生ごみ処理機の購入や使い方を含めて相談が来ており、中には生ごみ処理機の使用状況について、毎月電気代や投入量をメールで報告する人もいる。そういう人が新しく生ごみ処理機を使用する人に助言することは非常に有効だと感じている。使用する人の中には、処理機を使用したが高気代が高くなったとか、使用していく上でさまざまトラブルがある。</p> <p>HDMについては場所の問題もあり、話は継続しているがなかなか進展していない。しかし、HDMには小さい装置から大きい装置まであり、発展性があるものなので検討していただきたい。</p>
庄司会長	<p>色々ご意見が出ているが、他にあるか。</p>
竹内委員	<p>前回の審議会において、くつ・カバン類は毎月第2火曜日の午後2時から3時30分まで中町にあるリサイクル事業所前で拠点回収を行うという話が出ていたが、その後どうなっているのか。また、先日行われたごみ減量ワークショップの結果について、前回の審議会内で報告するよう求めたがどうなっているか。</p>

井上係長	<p>拠点回収については、3月15日市報ごみ減量・リサイクル特集に掲載しており、ご指摘どおりの日時で行う予定である。なお、今回の処理計画上においても新たに実施する施策の中に記載している。</p>
石阪課長補佐	<p>ごみ減量ワークショップについては、生ごみ等の循環型まちづくり推進事業の一部として行われており、事業全体の最終報告については、近日中に提出していただける予定となっている。委託会社側での作業が最終段階を迎えており、ワークショップに特化した報告ができる状況ではないため、最終報告で対応させていただくということでご了承願いたい。</p>
竹内委員	<p>我々への報告は4月以降になってしまうということであるが、ごみ減量ワークショップの中でごみ減量についての提案等も出ていたようであり、平成24年度処理計画に加えることもできると考えていた。こうした提案等を盛り込むのは早くても平成25年度ということではよろしいか。</p>
加藤委員	<p>平成25年度ではなく、今回の処理計画上での記載は無理でも平成24年度の途中からでも効果的な施策であるなら取り入れることができないのか。</p>
柿崎課長	<p>この生ごみ等の循環型まちづくり推進事業は平成23年度の事業であり、我々も報告書を確認するのが3月末以降となるため、まずは内容を確認した上で今後の対策を考えていく必要がある。</p>
原委員	<p>先程の報告の中で、市内保育園・学童保育・児童館等でチラシを配布したところ生ごみ処理機の申請件数が増加したという報告があった。以前より伊藤委員が学校教育を重要視しているように、年配層はすでにごみ減量に取り組んでいる方が多く、児童の保護者世代にターゲットを絞って取り組んだのは非常に良かったと感じる。</p>
庄司会長	<p>啓発と一言で言っても実際に相手に到達しなければ意味がなく、色々な工夫を行うことで成就していかなければならない。そのためには、地域特性とか世代別等、小金井市のようにこれまで市民も含めて一生懸命取り組んでいる中で、更に減量を推進していくためには、相当細かくターゲットを絞りながら行っていかないとこれ以上の効果を更に上げることは難しい。</p> <p>今後の課題が本日の意見の中で垣間見ることができる。その一つとして、生ごみの水切りを含めた生ごみを減量する上でのターゲットを定めることである。8ページの充実させる施策アにある水切りについても、本日各委員から出たご意見を参考にし、少し具体的な方向性を示す必要はある。特に、水切りについて全世帯の25%の効果というのは加藤委員から指摘があったようになり厳しい数字であろう。ただし、あくまでも減量の目標数値を想定する裏付</p>

	<p>け資料という位置付けであり、これ自体は政策として積み重ねられているものではない。したがって、ここまで処理計画の中に盛り込む必要があるのかどうかという問題はあるが、処理計画の中に若い世代に対する方向性を入れて出していくのも方法なのかと思う。本日のご意見を踏まえて事務局で整理した後、最終案の中に反映させるということで良いか。</p> <p>他にご意見はあるか。</p>
伊藤委員	<p>市報等を利用して、例えば、各学校での給食の残り物についての児童の取り組みなど、各学校でのごみ減量についての取り組み状況等の掲載もお願いしたい。</p>
佐藤委員	<p>8ページの新たに実施する施策イに東京学芸大学と連携し、という記述があるが、大学生の意見を取り入れ、児童にも分かるように工夫していただきたい。例えば、生ごみの水切り効果についても目に見えるような形で取り上げてもらえると非常に分かりやすい。</p>
庄司会長	<p>様々なことに取り組んでいただくためには、実際に効果が目に見えると思欲が出てくる。水切りが実際にどのような効果があるのか分かることは大切だ。</p>
加藤委員	<p>具体的な成果が上がると定着するということがある。初めて生ごみを投入しに来た時は必ずしも水切りが十分ではなかった人も、徐々にしっかりするようになる。また、細かく切って乾燥させて持参する人もいる。実際の行動の中で成果を出していくことが大切だ。</p>
多田委員	<p>私は子ども会の代表として当審議会に参加しているが、親と子供が楽しめるような色々な企画があれば普及啓発につながっていくと思う。</p>
柿崎課長	<p>平成24年度については、子供向けに東京学芸大学と連携してDVDの作製を予定しており、できれば夏休み前までに完成させ、夏休み期間中には親子で楽しめるようなイベントを行っていきたいと考えている。</p>
庄司会長	<p>子供をターゲットにすると同時に親世代もターゲットになる。</p>
簗口委員	<p>例えば、子供がリサイクル施設に行った事を家で報告してもらえると、家族にとってはプラスになるし、子供に言われると考えさせられる事が多々ある。当然、子供も意識する。</p>
加藤委員	<p>今月の28日に、日野市ごみゼロ推進課の方々をお招きして、講演会を実施する。日野市は市内店舗での特定容器等の自主回収についての成果が上がって</p>

庄司会長	<p>おり、これは、市及び事業者、市民が一体となって行わなければ進まない取り組みであり、非常に興味深い。是非皆様にお越しいただきたい。</p> <p>日野市は事業者の店頭での自主回収について、市と事業者、市民も入って仕組みを作り、かなり成果を上げている。今から約10年前に朝日新聞多摩版で最低の行政だと叩かれ、その後、奮起して市長が先頭に立ち、ごみの減量に取り組んだ。市職員全員をごみ対策の担当職員として発令し、担当課は勿論だが他課の職員も兼務発令して全員がごみ行政に関わって現在に至っている。</p> <p>では、本日のご意見を踏まえた上で、今後、事務局で改めて精査し、作成していただきたい。ただし、当審議会内で審議を行う時間がなく、今後の調整については会長であるの私の一任とさせていただきたい。</p> <p>閉会</p>
------	---